



自生的近代性の理論的背景としての東西区分

East-West Distinction as Theoretical Background

目次

- 1 東西洋思惟方法論の差異
- 2 認知心理学的研究結果
- 3 東西洋差異の多様な解釈
- 4 構造主義と内在性概念
- 5 ポスト構造主義の外部の思惟
- 代替的近代性理論
- 大巡思想における東西区分
- 結論および意義

東西洋思惟方法論の差異

東洋的思惟

- ◆ 全体論的思惟(Holistic Thinking)脈絡と
- ◆ 背景に焦点
- ◆ 集団的統制志向
- ◆ 複合的世界観

西洋的思惟

- ◆ 分析的思惟(Analytic Thinking)個別事
- ◆ 物と数量に焦点
- ◆ 個人的統制志向
- ◆ 単純化された世界観

リチャード・ニスベット(Richard Nisbett)の認知心理学の研究

実験結果: 飛ぶ鳥を見て

東洋人 → 背景を記憶

文脈と全体的イメージに集中

西洋人 → 鳥の数を記憶

個別客体と数量に集中

東学および大巡思想における東西区分

東学と西学(西洋学問)の差異は単純な文化的区分ではなく、根本的な思惟体系の差異を反映する。

認知心理学的研究結果

ニスベット(Richard E. Nisbett)の実証的研究

実験心理学を通じて東西人の認知パターンの差異を立証

東洋人の認知

- 世界は複雑で集団的統制の対象
- 背景と文脈に焦点

西洋人の認知

- 世界は単純で個人的統制の対象
- 事物と数量に焦点

馮友蘭(馮友蘭)の解釈

商業と農業文化の差異

- 西洋:商業の発達により本質と実体の区分が必要。東洋:農業中心の環境で直観的認識が重要
- 東洋に認識論がなかった理由:自然との直接的関係に由来

金弼年の解釈

地理環境的要因

- 西洋:多人種共存 → 明確な意思疎通 → 論理の発達。東洋(中国):春秋戦国の政治的問題 → 内面倫理の発展。集団性(東洋)と個人性(西洋)の起源は環境的要因

朴東煥の言語学的モデル

韓国の論理は西洋・中国と異なる虚辞決定の循環的論理学。周辺が中心を決定する方式で新たな理論が融合される特徴

東西の差異は全体と部分の関係として類型化

崔鳳永:個体と共同体を個別的/全体論的観点から見る差異

* ニスベット(1941-現在)、馮友蘭(1894-1990)、金弼年、朴東

東西洋差異の多様な解釈



環境決定論的解釈

馮友蘭(馮友蘭):商業と農業文化の差異－東洋の自然環境が農業基盤の直観的認識を発達。金弼年:集団性と個人性の差異－地理環境の差異に起因(多人種vs単一民族)



言語学的モデル

朴東煥:韓国の論理学は周辺が中心を決定する「虚辞決定の循環的論理学」。
。西洋と中国と異なる韓国的論理は新たな理論を融合する特徴を持つ



文化論的アプローチ

崔鳳永:個体と共同体の関係性－各文明を類型化

- ◆ 西洋:個別者-合体的世界観(近代)、統体-従属者的世界観(伝統)。
- ◆ 中国:統体-部分者的世界観
- ◆ インド:統体-縁起者的世界観

“ 文化の差異は単純な慣習の差異ではなく、思惟体系と世界観の根本的差異として理解しなけ ”

構造主義と内在性概念

レヴィ=ストロースと『野生の

思考』

- ◆ 構造主義人類学原始社会の思惟も西欧的思惟に劣らない構造的原理を保有
- 「野生の思考(Savage Mind)」:陰陽のような対称的思惟
- ◆ (Symmetrical thinking)で構成
- 東洋的全体論的思惟が対称的思惟により近い
- ◆ 仏教の空(空)概念:対称性思考の極致であり万物の対称性と一致
- ◆

内在性概念と西洋思惟の限界

- ◆ 内在性(Immanence):特定の文化で共有する暗黙的な規約、外部からのみ認識可能
- ◆ 西洋思惟の内在性:アリストテレスの実体論(substance theory)。マテオ・
- ◆ リッチ:実体論に基づき陰陽五行と理気論を批判
- ◆ 西洋実体論の独断変化を実体(原子、神など)で説明しなければ論理的でないという前提

ドゥルーズ、ジュリアンの内

在性の探求

ドゥルーズ(Gilles Deleuze, 1925–1995)

西洋思想の実体性を批判し、「外部の思惟(Outside Thinking)」を追求

フランソワ・ジュリアン(François Jullien)

東洋の内在性に注目:実体を仮定せずとも対立の統一を志向

- 東洋の相関的思惟独断から脱しつつも、分析哲学が解決できなかった問題に対する代案を提示

* レヴィ=ストロース『野生の思考(La Pensée

ポスト構造主義の外部の思惟

「外の思惟(Outside Thinking)」とは？

ポスト構造主義者たちが西洋思想の内在性(immanence)から脱するために追求した思惟方式。

特にアリストテレスの実体論が持つ独断的性格に対する批判から出発

ジル・ドゥルーズ (Gilles Deleuze)

内在性(immanence)概念の提示

西洋哲学の実体性は批判しつつ、東洋に対しては批判しない

ミシェル・フーコー (Michel Foucault)

西欧知識体系の系譜学的批判

西洋思想の核心に内在する権力と独断の関係の分析

ジャック・デリダ (Jacques Derrida)

音声中心主義(Grammatology)批判

。西洋形而上学の二分法的構造の解体

西洋実体論の限界

- ◆ 変化過程には必ず実体(原子、神など)が必要という独断
- ◆ アリストテレスの実体論が西洋思想の独断を招来マテオ
- ◆ リッチが東洋の陰陽五行論批判に実体論を活用

東洋的代案の可能性

- ◆ 実体を仮定しない東洋の内在性
- ◆ 西洋の独断から脱することのできる相関的思惟体系
- ◆ ジュリアン:東洋の内在性から西洋近代思想の道徳的基盤を発見

代替的近代性理論

汪暉(汪暉、1959-現在)

中国思惟に基づく代替的近代性

- ◆ 中国思惟の変換過程における代替的近代性の探索
- ◆ 孔子の「仁(仁)」思想は周代の礼楽の神聖性回復の試み
- ◆ 災異論と理気論もまた崩れた神聖性の回復伝統の回復
- ◆ とともに代案的近代性が可能

黄泰淵(1955-現在)

儒教的合理性と近代性

- ◆ 西欧の合理性はカント的意味ではなく儒教的合理性孔
- ◆ 子孟子の思想が西欧に導入され近代合理性を形成分析
- ◆ 哲学より儒教的合理性が独断から自由「儒教的近代の
- ◆ 一般理論」の提示

代替的近代性の共通点

聖と俗の統攝と変化

東洋伝統から現代的価値の発見

相関的思惟の現代的適用

陰陽論的思考を通じた実体論の克服

*汪暉『近代中国思想の興起』

*黄泰淵『儒教的近代の一般理

大巡思想における東西区分

西洋(西洋)

東洋(東洋)

西洋(西洋)-陽(陽)

- ◆ 崑崙山の西側地域
- ◆ 陽の属性:下から上へ上る原理分析的実体的思惟体系
- ◆ 大巡思想:西洋の各自為心(各自為心)

東洋(東洋)-陰(陰)

- ◆ 崑崙山の東側地域
- ◆ 陰の属性:上から下へ下る原理全体論的属性的思惟体系
- ◆ 東学思想:東洋の神明がとどまる領域

崑崙山

神明界(神明界)の東西区分

「マテオ・リッチ以前、東西洋を固く隔てて神明が互いに往来しなかった。」
- 『典経』 「教運」 1-9

「東洋のすべての道通神を率いて西洋へ震黙大師が渡って行った。」
- 『典経』 「公事」 3-15

大巡思想における東西洋の区分は地理的境界を越え、神明界の構造まで貫通する根本的原理として作用する

結論および意義

東西区分の哲学的含意

東洋の内在性

全体論的属性、脈絡中心、宇宙から自己へ下降する陰(陰)の原理

東学思想と大巡思想の意義

東西洋の区分を陰陽の世界観的基盤として解釈し、近代性に対する自生的理解の枠組みを提供

西洋の内在性

部分子的実体、個体中心、自己から宇宙へ上昇する陽(陽)の原理

自生的近代性の可能性

東洋的アプローチ

- ◆ 全体論的思惟の現代的再解釈
- ◆ 孟子の修養論的実存概念 王暉
- ◆ の代案的近代性モデル
- ◆ 陰陽に基づく相関的思惟の現代的適用

統合的観点の必要性

- ◆ 後期構造主義の「外部の思惟」の
- ◆ 追求リミナリティ理論と液体近代
- ◆ 性実体論と属性論の相補的結合フ
- ◆ ラクタル理論と自己組織化理論

現代的意義と示唆点

東西洋の区分は単なる地理的・文化的次元を越え、思惟方式と哲学的内在性の根本的差異として解釈可能である

東西洋の二分法を越え、陰陽調和の原理により現代社会の多様な問題解決のための哲学的基盤を提供